

学習指導に関する調査・研究委員会

第4章

本年度の成果 (検証授業を通して)

後志教育研修センター学習指導委員会検証授業

研修講座『学習指導』公開授業

日時 平成22年9月8日(水)

第5教時 13:35~14:20

国語科学習指導案

児童 倶知安小学校 5年1組 24名

授業者 教諭 吉尾 充二

実践テーマ：「言語活動の充実を目指して」

1 単元名 生き方を見つめて読もう

教材名 「大造じいさんとがん」(物語文) 椋鳩十

2 単元について

【教材のよさ】 本教材は、これまで長い期間教科書に掲載されてきた文学教材である。教育出版でも、一時期をのぞき、掲載され続けている。がんとりの名人である大造じいさんから聞いた話という形態で始まるが、何年にもわたってがんに挑む大造じいさんの様子や、がんの頭領にふさわしい残雪の勇姿に、生き生きとした優れた情景描写により、感情移入しながら読み進めていくことができる。

【指導計画の主張】 大造じいさんと残雪の戦いを通して、大造じいさんの行動や心情の変化を中心に読み取っていく。叙述に即して読み取っていく授業を基軸に据え、その中でも豊かな情景描写から、大造じいさんの心情に迫っていければと考える。

段落ごとに、大造じいさんの残雪に対する心情の変化を読み取るが、その中で各場面にちりばめられている情景描写について、それらが物語とどのように関わっているか、大造じいさんの心情に関わっているのかについて考えられるように授業を構築していきたい。

3 児童の実態

授業に対する姿勢はとても意欲的である。課題に対して自分の考えをしっかりと持てる児童が多い。しかし、学級全体の場で、自分から進んで発表する児童は限られている。しかし、少ない人数での限られた中での話し合いでは、自分の意見を伝えられる場合が多いので、そのための時間を積極的に取り入れていきたい。

4 研究の視点とのかかわり

視点1 とのかかわり(問題解決的な学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価)

初発の感想をまとめ、自分たちの感想を交流しあうことで、多様な価値観と新たな言語を発見、取得することができる。また、それらの感想を発表し合い、そこから自分たちの学習計画を立てることで、見通しを持って学習を進められる。自分たちの考えたことを発表し合い、その中から言葉に注目し、焦点化することで、言葉に対する繊細な感覚をつかむことができるようにする。

単元を通して、単位時間ごとに残雪に対する大造じいさんの台詞を考えることで、考えを整理し、「自分が大造じいさんなら・・・」と感情移入して考えることで、場面にあった考えを持ち、表現できるようにする。

視点2とのかかわり（言語活動を意図的・計画的に設定した学習過程とその指導のあり方の工夫）

本文から自分の考えの根拠を探り、その論理的な考えを基に交流することで、自分の考えを明確に表現したり、友達の意見に対して、自分の感想や意見を持ちながら話し合うことができる。

場面ごとに残雪に対する大造じいさんの台詞を考えることで、大造じいさんの心情の移り変わりとらえることができる。また、それを文章で表すことでその場面での大造じいさんの心情をより深く考えることができ、友達と交流することで、自分の表現をよりよいものにすることができる。

5 単元の目標と評価計画評価基準

- 【**関心意欲態度**】 登場人物の生き方に共感しながら、作品を深く読み、感想を持つことができる。
- 【**読むこと**】 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むことができる。
- 【**言語事項**】 正しい仮名遣いに注意して書くことができる。

観点	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
1・2	これからの学習の見通しを持ち、意欲的に活動に取り組もうとする。		
3		大造じいさんの気持ちが表れている部分を見つけ、まとめることができる。	
4		大造じいさんの気持ちが表れている部分を見つけ、まとめることができる。	
5		大造じいさんの気持ちが表れている部分を見つけ、まとめることができる。	
6		大造じいさんの気持ちが表れている部分を見つけ、まとめることができる。	
7		文章を通して、大造じいさんの気持ちの変化について読み取り、まとめることができる。	正しい仮名遣いに注意して感想を書くことができる。

6 指導計画（全7時間21M 本時5/7）

	主な学習内容	教師の関わり
1	単元の内容を確かめ、学習の見通しを持つ。『大造じいさんとがん』を読み、学習計画を立てる。	・教師による範読
2	学習のとびらから、場面の様子や大造じいさんの気持ちを想像しながら読み、生き方について考えることがねらいであることを確かめる。	・登場人物の行動で疑問に思ったこと、心に残った場面と情景がよく浮かぶ場面の文章を中心に自分の感想を書くように支援する。
6 M)	全文通読 初発の感想を書く 感想を交流する。(全体)	☑：初発の感想を書き、発表、交流する。

	<p>初発の感想から学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の感想を場面ごとにまとめ、段落ごとの課題に考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1 「ううむ！」と声をもらしたときの大造じいさんの気持ちを考えよう。 2 「ううん。」とうなってしまったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。 3 残雪に対する大造じいさんの気持ちを考えよう。 4 残雪が飛び去っていくのを見守っていた大造じいさんの気持ちを考えよう。 	<p>☞：言葉に注目し、課題になる言葉に焦点を当てる。</p>
<p>3 (3 M)</p>	<p>第一段落の読み取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ううむ！」と声をもらしたときの大造じいさんの気持ちを考えよう。</p> </div> <p>第一段落の4つの場面を確認する。</p> <p>残雪ががんの群れを率いてやってくる。 (今年も)</p> <p>大造じいさんがうなぎつりばりを仕掛ける。 (残雪がやってきたと知ると)</p> <p>大造じいさんの仕掛けによりがんを1羽捕まえる。 (よく日の昼近く)</p> <p>うなぎつりばりの仕掛けで1羽も捕まえられなかった。 (そのよく日)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>それぞれの場面で大造じいさんの気持ちが表れている部分を探そう。</p> <p>「なかなかりこうなやつで」 「いまいまく思っていた。」 「今度は、なんだかうまくいきそうな気がしてならなかった。」 「『しめたぞ！』つぶやきながら夢中でかけつけた。 「『ほほう、これはすばらしい！』思わず子どものように声を上げて喜んだ。」 たかが鳥のことだ、一晩たてば、またわすれてやってくるにちがいない 「『ううむ！』思わず、感たんの声をもらしてしまった。」 「どうしてなかなか、あの小さい頭の中に、たいした知恵をもっているものだな」</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>などをもとに大造じいさんの気持ちをまとめてみよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>いまいまく思っていたが、うなぎつりばりの仕掛けによって1羽捕まえてうれしく思っていたが、2度目は失敗し、残雪に対して感心している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ううむ！」の続きの大造じいさんの台詞を考える。</p> </div>	<p>☞：大造じいさんの心情が表れている言葉を探す。</p> <p>☞：大造じいさんのセリフを考</p>

<p>4 (3 M)</p>	<p>第二段落の読み取り</p> <p>「うん。」とうなってしまったときの大造じいさんの気持ちを考えよう。</p> <p>今回の作戦 たにしを4, 5日続けて同じ場所にまき、少し離れたところに小屋を建て、待ち伏せする。</p> <p>大造じいさんの気持ちが表れている部分を探そう。 「会心のえみをもらした。」 「『しめたぞ！もう少しのしんぼうだ。あの群れの中に一発ぶちこんで、今年こそは、目にもの見せてくれるぞ。』 「ほおがびりびりするほどひきしまった。」 「またしても残雪のためにしてやられたのだ。」 「じっと見つめたまま『うん。』とうなってしまった。」</p> <p>もう少しのところなのに、昨年が続いて、残雪にしてやられてくやしい。</p> <p>「うん。」の続きの大造じいさんの台詞を考える。</p>	<p>える。</p> <p>言：大造じいさんの心情が表れている言葉を探す。</p> <p>言：大造じいさんのセリフを考える。</p>
<p>5 (3 M) 本 時</p>	<p>第三段落の読み取り</p> <p>残雪に対する大造じいさんの気持ちの変化を読み取ろう。</p> <p>今回の作戦 二年前に捕まえたがんをおとりにして、最初に飛び立ったものの後について飛ぶという習性を利用して捕まえる。</p> <p>大造じいさんの気持ちが表れている部分を探そう。 「青くすんだ空を見上げながらっこりした。」 「『さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。』 「が、なんと思ったか、再びじゅうをおろしてしまった。」 「鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようであった。」</p> <p>大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わったのは、どこでしょう。 再びじゅうをおろしてしまった。 いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようであった。 強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった。</p> <p>その根拠について考える。 残雪は、ただ、救わなければならぬ仲間の姿があるだけだった。 残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げた。そして、じいさんを正面からにらみつけた。 残雪は、もうじたばたさわがなかった。それは、最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと、努力しているようでもあった。</p>	<p>言：大造じいさんの心情が表れている言葉を探す。</p>

<p>残雪の勇敢な態度を見て、絶対に捕まえたいにくいえものから、ひきょうなまねではなく、堂々と勝負したいライバルになった。</p>	<p>言：大造じいさんのセリフを考える。</p>
<p>残雪に対する大造じいさんの台詞を考えよう。</p>	<p>言：大造じいさんのセリフを考える。</p>
<p>6 第四段落の読み取り (残雪が飛び去っていくのを見守っていた大造じいさんの気持ちを考えよう。 M 「おりのふたをいっぱい開けてやった。」) 「『おうい。がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあおい。今年の冬も、仲間を連れて、ぬま地にやってこいよ。そうして、おれたちは、また、堂々と戦おうじゃないか。』」 「晴れ晴れとした顔つきで見守っていた。」 仲間を救う姿や堂々とした威厳のある態度から、残雪を英雄として認め、次には、正々堂々と戦いたいと思った。</p>	<p>言：大造じいさんの心情が表れている言葉を探す。</p>
<p>7 まとめ (大造じいさんの残雪に対する気持ちの移り変わりをまとめ、感想を書こう。 M ・大造じいさんが残雪のことをどう呼んでいるかに注目し、それぞれの段落で読み取ったことを対比していく。) ・情景描写と大造じいさんの気持ちとのつながりについて考える。 各場面での大造じいさんの気持ちをノートにまとめ、「大造じいさんと自分というテーマで感想を書き、交流する。」</p>	<p>言：大造じいさんが残雪をどう読んでいるかに注目し、大造じいさんの気持ちになって感想を書くことができる。</p>



7 本時について

(1) 本時の目標

【読むこと】 第三段落を読み、はやぶさと残雪の戦いを見て、大造じいさんがどのような行動をとり、残雪に対する気持ちにどのような変化が見られたかと読み取る。

(2) 本時の主張

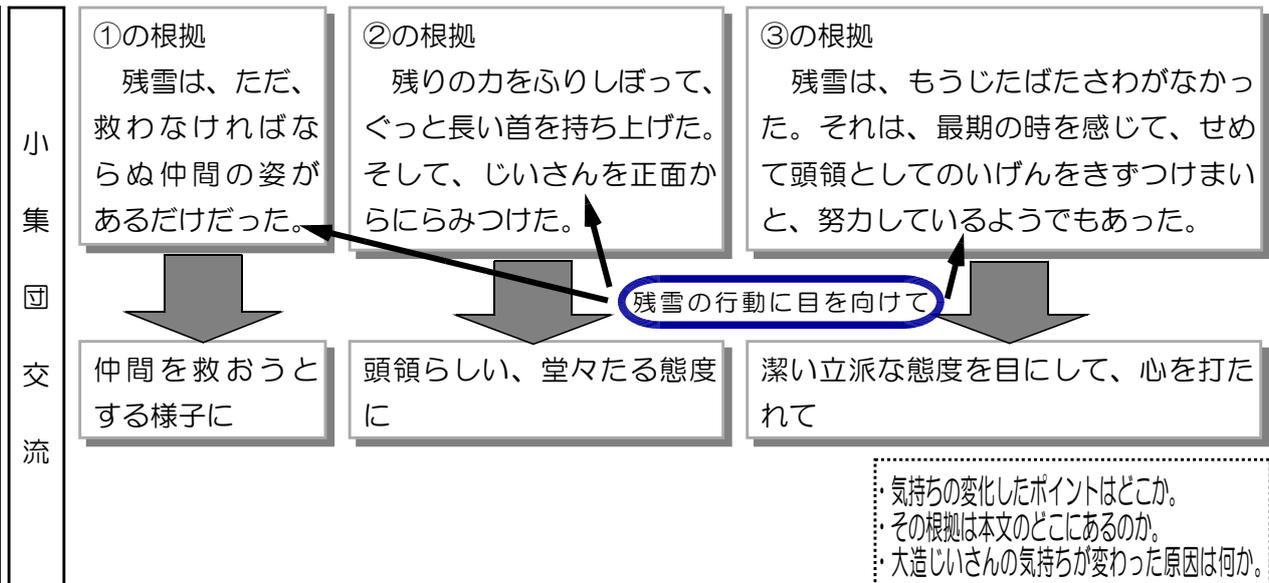
前年、前々年とともに残雪に対して、苦杯をなめた大造じいさんが、はやぶさとの戦いの中で残雪をとらえる絶好の機会に銃を自らおろした。大造じいさんの心が大きく揺れ動く場面で、大造じいさんの気持ちの変化したポイントを考えさせる発問をすること、また、残雪に対する大造じいさんのセリフを考えることで、児童の思考を揺さ振り、より深い読み取りに導きたい。

(3) 問題解決力育成の手立て

	課題を見つける力	自ら考える力	表現する力	共に高めあう力	学びを振り返る力
手 立 て		大造じいさんの気持ち が変化したポイント を考えさせる発問を することで、大造 じいさんの心情の 変化に迫らせる。			残雪に対する大 造じいさんの台詞 を考えることで、 本時の学習を振り 返えさせる。

(4) 本時の展開 (5 / 7 時間)

子どもの活動・思考の流れ		教師の関わり ○評価
○前時までの振り返り 自分の作戦が二年連続で失敗しているくやしさを。残雪に対する関心		
○課題の確認		
残雪に対する大造じいさんの気持ちの変化を読み取ろう。		
○今回の作戦の確認		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 二年前に捕まえたがんをおとりにして、最初に飛び立ったものの後について飛ぶがんの習性を利用して捕まえる。 		
自 力 解 決	<p>○残雪に対する大造じいさんの気持ち表れている部分を探す。 空を見上げながらにっこりした。 「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」 が、なんと思ったか、再びじゅうをおろしてしまった。 鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようであった。 強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしなかった。</p> <p>○段落の最初と最後の大造じいさんの残雪に対する気持ちを確認する。 大造じいさんの残雪に対する気持ちがにくい敵から好意を持つようになったのは、どこでしょうか。</p> <p>① 再びじゅうをおろしてしまった。 ② 大造じいさんが手をのばして ③ 強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしなかった。</p>	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">言語活動</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>台詞・行動・地の文でも強い意思が表れている言葉「のだ。」 「である。」などに注目するよう支援する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>変化したと思うポイントを明確にし、考えた理由や根拠を文章中から導くことができるよう支援する。</p> </div>



○交流したことの発表

②のところでも大造じいさんの気持ちが変わっていると思うけど、敵から大きく気持ちが変わって、ただの獲物としてじゃなく見ているのは①のところだと思う。

心を打たれてと書いてある③で大造じいさんの気持ちがはっきりしたけど、じゅうをおろしたというはっきりした行動で大造じいさんの気持ちが変わったと思う。

○まとめ

残雪の勇敢な態度を見て、絶対に捕まえたいにくいえものから、ひきょうなまねではなく、堂々と勝負したいライバルになった。

言語活動

○大造じいさんの残雪に対する台詞を考える。

残雪よ、おまえは、なんてすばらしいやつなんだ。おまえの勇氣ある行動、もがいたりあがいたりしないその堂々とした態度。感動した。おとりを使おうとしていた自分が恥ずかしいよ。おまえはすごい鳥だよ。

○読むこと 1-ト・隼

残雪に対する大造じいさんの気持ちが変わっていることに気づき、その思いをまとめることができる。

○振り返る

(5) 板書計画

大造じいさんとがん
第二段落
課題
残雪に対する大造じいさんの気持ちの変化を読み取ろう。
残雪の行動
大造じいさんの気持ち
あつ残雪ことあわぶかせひま

残雪の目には、人間もほぶさなもなかつた。ただ、救わなければならぬ仲間の姿があっただけだった。

残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げた。そして、ごんを正面からにらみつけた。

残雪は、もうじたばたさわがなかった。それは、最期の時を感じて、せめて頭領としてのいげんをきずつけまいと、努力しているようでもあった。

① 再び仲間を助けた。

② 大造じいさんが手をのびても

③ 強く心を打たれて

まとめ
残雪の勇敢な態度を見て、絶対に捕まえたいにくいえものから、ひきょうなまねではなく、堂々と勝負したいライバルになった。

8 実践を終えて

(1) 視点1に関わって

学習内容を盛りだくさんにしてしまったために児童に考える時間を十分に与えることができなかった。そのため、授業後半の全体交流での話し合いが活発にならなかった。段落を分けて2時間で扱うなどして時間を十分にかけるほうが良かった。

言語活動として、自由に意見を交流する場面においては、課題を明確にすることで自分の意見を持って話し合うことができているので、スタートだけでなく、ゴールを明確にして自分の意見に自信を持って話し合える状況を作り出していければなお良かった。

言語活動によって、子どもたちは、より意欲的に自分の意見を持って話し合うことができるので、子どもの思考に寄り添って、授業計画を立てていけば、子どもたちは自分の意見を話したい、友達の意見をもっと聞きたいと思えるようにできることを感じた。この授業を通して、言語活動を支える環境作りをもう一度見直していきたい。

(2) 視点2に関わって

1単位時間の流しを段落ごとに同じにすることによって、子どもが考えやすい状況を作り出せた。そのため、自力解決後の小集団交流では、子どもたちが自分の意見を活発に出すことができた。小集団交流で意見をぶつけ合うことができているので、全体交流でも自信をもって自分の意見を発表する場面が多く見られた。

今後の課題として、全体交流の場面においては、自力解決の場において、全体交流のイメージ(どの子の意見を取り上げて全体で話し合わせるか)しておく必要がある。普段の授業においても、全体交流を意識して授業に取り組んでいきたい。